

Resolving Social Issues *with* IT Solutions

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6 CANON **S**TOWER

キヤノンMJグループウェブサイト

- 会社情報ページ
canon.jp/8060
- 投資家向け情報
canon.jp/8060-ir
- サステナビリティ活動
canon.jp/8060-csr



統合報告書

2021年12月期

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社



キャノンマーケティングジャパングループの サステナビリティ経営

「共生」の理念のもと、すべての人類が末永く共に生き、
共に働き、幸せに暮らしていける社会の実現を、
すべてのステークホルダーと追求していきます。



キャノングループの企業理念「共生」は、人・社会・自然が調和して
人類すべてが豊かに暮らしていける社会の実現を目指すもので、まさ
にSDGsが求めている社会像に相通じるものです。そして、「共生」の
実現は、現在の経営の言葉でいう、サステナビリティ経営そのもので
あると思います。私たちは、サステナビリティ経営の推進に向け、キャ
ノン製品事業とITソリューション事業を組み合わせることで解決できる
領域を広げ、「事業を通じた社会課題解決」に取り組んでまいります。

サステナビリティ 経営の推進

事業を通じた社会課題解決による
持続的な企業価値の向上

CONTENTS

イントロダクション	3
キャノンMJグループの価値創造	
沿革	7
価値創造プロセス	9
価値創造を実行するキーワード	11
社長メッセージ	13
キャノンMJグループの経営戦略	
2021-2025 長期経営構想	19
2022-2025 中期経営計画	21
財務戦略(財務資本)	25
特集 キャノンMJグループの人的資本	27
人的資本	31
セグメント別事業紹介	33
セグメント別事業戦略	
コンシューマセグメント	35
エンタープライズセグメント	37
エリアセグメント	39
プロフェッショナルセグメント	41

特集	
2025年ビジョン「社会・お客さまの課題をICTと人の力で 解決するプロフェッショナルな企業グループ」の実践	43

キャノンMJグループのサステナビリティ	
サステナビリティマネジメント	45
環境(自然資本)	47
社会	51
コーポレート・ガバナンス	54
社外取締役鼎談	63

データ	
10年間要約財務情報	67
連結財務諸表	69
ESGデータ	77

会社概要／投資家情報	
キャノンマーケティングジャパングループ	79
企業情報	81

■ 編集方針

キャノンMJグループでは、2019年12月期から、業績や事業戦略などの財務情報に、従来のCSR報告書に掲載していた非財務情報を関連付けて総合的に報告する「統合報告書」を発行しています。

「統合報告書2021」では、2025年ビジョンおよびキャノングループの企業理念である「共生」の実現を目指す当社グループの中長期的な価値創造能力を紹介しており、さまざまなステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的とした重要なコミュニケーションツールと位置付けております。

また、財務面の詳細な情報はウェブサイトや有価証券報告書などで、サステナビリティ活動関連の詳細な情報はウェブサイトでご覧いただけます。

■ 対象期間

2021年度（2021年1月1日～2021年12月31日）
（一部に2020年度以前の活動や情報、および2022年度以降に予定されている活動や情報も含んでいます。）

■ 対象範囲

キャノンマーケティングジャパン株式会社および国内外のグループ会社
（一部に親会社であるキャノン株式会社の内容を含んでいます。）

■ 文中の表記

本統合報告書中、会社名を下記の略称で表記する場合があります。
キャノンマーケティングジャパングループ → キャノンMJグループ
キャノンマーケティングジャパン株式会社 → キャノンMJ
キャノンITソリューションズ株式会社 → キャノンITS
ITソリューション → ITS

■ 参考とした統合報告書のガイドライン

国際統合報告評議会（IIRC）「国際統合報告フレームワーク」
経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」

■ 見通しに関する注意事項

本統合報告書には、キャノンMJグループの業績、経営計画などの将来に関する見通しが記載されています。これらはすべて本統合報告書の発行時点で有効な情報を考慮に入れた経営陣による仮定に基づいています。

このため、日本および他の主要な海外市場における消費者動向、民間設備投資、主にドルに対する為替変動、原料価格、特定の国または地域における政治的混乱などの要因が、実際の業績に影響を及ぼす可能性があります。

1968年

設立

お客さまの近くでビジネスを行うために 販売会社を設立

高度経済成長が続いた1962年に、キヤノンは第一次5カ年計画を策定し事務機分野へ本格的に参入。1970年には国産初の普通紙複写機「NP-1100」の発売を開始するなど国内の事務用機器および複写機市場の拡大に貢献する一方、競合他社による市場参入が相次ぎ、ユーザーの声をいち早く製品に反映させる仕組みを強化する必要がありました。

キヤノンはお客さまの近くでビジネスを行うため、製造と販売の分離を決断。1968年に創業したキヤノン事務機販売を母体としてキヤノン事務機サービス、キヤノンカメラ販売を統合し、1971年にキヤノン販売株式会社を設立。1970年代はオイルショックなどの影響により国内経済は低迷する中、キヤノン製品の「日本向けの商品企画」「広報・宣伝活動」「営業・販売・アフターサービス」を担当した当社は、事務用機器市場の拡大に加え、一眼レフカメラ市場の拡大もあり順調に事業を拡大しました。



1971年 キヤノン販売株式会社 発足記念祝賀式

1980年～

顧客基盤の拡大 商社機能を発揮



1984年 ゼロワンショップ1号店

販売チャネルの強化と 独自事業の推進

事務用機器市場の拡大に伴い、業務効率化のためのワープロ、パソコンが急速に普及する中、当社はキヤノン製品で培ったブランド力と販売力を活かし、アップルコンピュータ社、日本アイ・ビー・エム社、日本サン・マイクロシステムズ社と販売提携。またお客さまの近くで多様な要望に応えるためにオフィス街を中心にゼロワンショップを店舗展開し、セミナーや体験講座を実施しました。さらに、同時期に家電量販店にOA機器の販路を拓きました。パソコンの普及を追い風にインクジェットプリンターの販売が拡大し、パーソナルOA機器のメイン販路へと発展しました。

Sier機能の基盤構築 技術力の蓄積

システムインテグレーション 事業の展開

急速に進むデジタル化やネットワーク化へ対応するために、「映像と情報のシステムインテグレーター」をコンセプトに掲げ、キヤノン製品に加え、海外からの直輸入品を含む他社製ハードウェアとソフトウェアを組み合わせるシステムインテグレーション事業を展開。1990年には通産省のシステムインテグレーター認定企業になるなど、メーカー商社ビジネス以外の独自性のあるビジネスを推進しました。

1990年～



1990年 キヤノングランドフェア「映像と情報のシステムインテグレーター」をコンセプトに開催

2000年～ 人材・技術の強化



2006年 キヤノンマーケティングジャパン株式会社に社名変更

卸売業から 情報サービス企業への変革

2000年以降は多様化・高度化するお客さまニーズへ対応するために、M&Aを積極的に行い、事業ポートフォリオの転換を推進しました。2003年に住友金属システムソリューションズを子会社化し、本格的なSIer機能、数理技術やR&D機能を獲得。2008年にアルゴ21と合併し、キヤノンITソリューションズに社名を変更し、金融機関向けのSI機能およびSIerとしての機能を強化しました。

また、2006年には社名をキヤノン販売から現在のキヤノンマーケティングジャパンへと変更。卸売業から情報サービス企業へと変革を遂げました。

ITプロバイダーへの 進化

ITソリューション事業の拡大

本格的なITネットワークの普及により、アウトソーシングやクラウドサービスに対するお客さまニーズの高まりを受けて、2012年に西東京データセンターが稼働・サービスを開始し、キヤノンマーケティングジャパングループ独自のビジネスを広く展開。中小企業におけるIT化の必要性に対応し、セキュリティビジネス、中小企業向けクラウドサービス「HOME」、IT保守などのビジネスに着手しました。2020年には西東京データセンター2号棟が稼働し、ITソリューション事業は拡大を続けています。



2012年 西東京データセンター稼働

2021年～

わたしたちキヤノンマーケティングジャパングループは
くらし・しごと・社会を進化させる
ソリューションを提供することで、
社会やお客さまの課題を解決してまいります。



社会やお客さまの課題に寄り添ってご提案をしていくという、キヤノンマーケティングジャパングループの姿勢は
今後も変わることはありません。

これまで築き上げてきた「顧客基盤」、「ブランド」、「技術力」、「財務基盤」を活用し、「商社」、「SIer」、「ITプロバイダー」としての機能に磨きをかけ、2025年ビジョン「社会・お客さまの課題をICTと人の力で解決するプロフェッショナルな企業グループ」を実現していきます。